

## 別紙

### <1> 展覧会について

1. 名称 特別展 「没後 50 年 <sup>やしろゆきお</sup> 矢代幸雄と大和文華館 一芸術を愛する喜び」
2. 会期 2025 年 4 月 12 日(土)～5 月 25 日(日) ※展示替があります。  
【前期】4 月 12 日(土)～5 月 6 日(火・振替休日)  
【後期】5 月 8 日(木)～5 月 25 日(日)
3. 休館日 毎週月曜日（ただし5月5日（祝）は開館し、7日（水）が休館）
4. 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時半まで）
5. 入館料 一般 1,100 円、高校・大学生 770 円 小学・中学生 無料
6. 主催 大和文華館、近鉄グループホールディングス株式会社
7. 共催 毎日新聞社

### 8. 出陳品数 94 件

代表的な展示作品 ●＝国宝、◎＝重要文化財、○＝重要美術品

#### 【第一章 東洋美術との出会い——三溪のコレクションと交流関係】

横浜生まれの矢代幸雄（1890－1975）は英語に親しみ、西洋美術研究を進める中で原三溪（1868－1939）と出会い、三溪の持つ珠玉の東洋美術コレクションと交流関係を通じて、東洋美術への造詣を深めていきます。本章では、矢代の美術鑑賞に対する姿勢に大きな影響を与えた原三溪旧蔵品を中心に、矢代と関わりが深い作品を展示します。

- 寝覚物語絵巻 平安時代 大和文華館 前期
- 一字蓮台法華経 平安時代 大和文華館 後期
- ◎焰魔天像 平安時代 MIHO MUSEUM 後期
- ◎源氏物語浮舟帖 鎌倉時代 大和文華館 前期
- ◎小大君像（佐竹本三十六歌仙絵断簡） 鎌倉時代 大和文華館 前期
- ◎病草紙絵巻断簡「肥満の女」 平安～鎌倉時代 福岡市美術館（松永耳庵コレクション） 前期
- ◎笠置曼茶羅図 鎌倉時代 大和文華館 後期
- ◎維摩居士像 文清筆 室町時代・長祿元年（1457） 大和文華館 前期
- ◎呂洞賓図 雪村周継筆 室町時代 大和文華館 前期
- ◎沃懸地青貝金貝蒔絵群鹿文笛筒 伝本阿弥光悦作 江戸時代前期 大和文華館 後期
- ◎孔雀立葵図屏風 尾形光琳筆 江戸時代 アーティゾン美術館 後期
- ◎扇面貼交手筥 尾形光琳筆 江戸時代 大和文華館 後期
- ◎武蔵野隅田川図乱筥 尾形乾山筆 江戸時代 大和文華館 後期

◎蜀葵遊猫図 伝毛益筆 中国・南宋時代 大和文華館 前期

◎萱草遊狗図 伝毛益筆 中国・南宋時代 大和文華館 前期



画像提供：福岡市美術館

◎病草紙絵巻断簡「肥満の女」 福岡市美術館（松永耳庵コレクション）※前期展示

## 【第二章 欧州留学とポッティチェリ研究——東洋美術への視点とともに】

矢代幸雄はイギリス、次いでイタリアで西洋美術を学び、生涯を通じた恩師となるバーナード・ベレンソンに師事してポッティチェリ研究を深めます。矢代幸雄の研究における新基軸には、細部表現への図版を多用した考察と東洋美術との表現上の比較が挙げられます。

研究図書『SANDRO BOTTICELLI』 矢代幸雄著 1925年出版 大和文華館

「矢代幸雄宛ベレンソン写真入りカード」 バーナード・ベレンソン筆 個人蔵

金銅獅子像（ベレンソン旧蔵） 中国・南北朝時代 個人蔵



〔実物大複製〕プリマヴェーラ（春）

（原作）サンドロ・ポッティチェリ筆 1482年頃 テンペラ 203×314cm イタリア・ウフィツィ美術館

## 【第三章 国際的視野から見た日本・東洋美術

### ——ロンドン・中国芸術国際展覧会と東洋美術研究】

1935～1936年にイギリス・ロンドンで開催された中国芸術国際展覧会は、北京から南遷していた故宮博物院の文物などが展示され、欧米に中国美術への大きな反響をもたらします。この展覧会には日本からも中国美術作品が出陳されています。矢代幸雄は日本での外国委員（foreign general committee）となり、ロンドンで中国美術についての講演を行っています。この出来事は、矢代にとってとくに中国美術への深い関心を持つきっかけになりました。

本章ではロンドンでの中国芸術国際展覧会に日本から出陳された主要な作品を展示いたします。欧州で中国美術に対する関心が高まる契機となった展覧会によって、当時の中国美術に対する意識と評価を探るとともに、矢代幸雄が中国および東洋美術へと研究の視野を広げた過程をたどります。

展覧会カタログ『The International Exhibition of Chinese Art』1935年刊行 Faber and Faber 社 大和文華館

- ◎饗饗文方盃 中国・殷時代 根津美術館
- ◎銀人立像 中国・戦国時代 永青文庫 後期
- ◎銀製鍍金耳杯 中国・戦国時代 永青文庫 後期
- ◎銀製刻文杯 中国・戦国時代 永青文庫 後期
- ◎銀製刻文杯 中国・戦国時代 永青文庫 後期
- ◎三彩貼花文壺 中国・唐時代 静嘉堂文庫美術館
- 三彩鴨形容器 中国・唐時代 静嘉堂文庫美術館
- 三彩獅子 中国・唐時代 静嘉堂文庫美術館
- 三彩獅子 中国・唐時代 静嘉堂文庫美術館
- ◎竹雀図 伝牧谿筆 中国・元時代 根津美術館 後期



中国芸術国際展覧会の会場にて出陳作品  
「◎饗饗文方盃」と矢代幸雄（左から2番目）



◎三彩貼花文壺 静嘉堂文庫美術館  
※通期展示 画像提供：（公財）静嘉堂/DNPartcom

#### 【第四章 矢代幸雄と大和文華館——東洋美術へのまなざしとコレクション】

欧州留学から帰国した矢代幸雄は、政府の委託を受けて欧米で日本美術展を開催する仕事を行う傍ら、中国へも足を運び、自ら心がけて文化や美術に接しています。その後、近畿日本鉄道社長であった種田虎雄との知遇により、大和文華館設立に携わり、コレクションの蒐集をまかされ、初代館長を務めました。「美の殿堂」として、矢代幸雄が理想とする美術館設立のために蒐集された東洋美術作品は、これまで矢代が培ってきた東洋美術への造詣が反映されています。近代美術家など、さまざまな友人との交友を深め、「芸術を愛する喜び」を大切にされた矢代幸雄の鑑賞眼から、東洋美術研究と作品鑑賞について考えます。

- 石造二仏並坐像 中国・北魏時代 大和文華館
- 白磁蟠龍博山炉 中国・隋-唐時代 大和文華館
- 三彩立女俑 中国・唐時代 永青文庫 後期
- 青磁多嘴壺 中国・北宋時代・元豊3年（1080）銘 大和文華館

- 雪中帰牧図 李迪筆 中国・南宋時代 大和文華館 後期
- ◎秋塘図 伝趙令穰筆 中国・北宋時代 大和文華館 前期
- ◎羅漢図 牧谿筆 中国・南宋時代 静嘉堂文庫美術館 後期
- ◎廬山図 玉潤筆 中国・南宋時代 岡山県立美術館 前期
- 五彩花鳥文小壺 中国・明時代 大和文華館
- 色絵おしどり香合 野々村仁清作 江戸時代 大和文華館
- ◎中村内蔵助像 尾形光琳筆・中根元圭賛 江戸時代 大和文華館 後期 ほか



●雪中帰牧図 大和文華館 ※後期展示

## <2> 展覧会会期中のイベントについて

1. 講演会
  - 「矢代幸雄－美術で東西を橋渡す試み」
  - (1) 日時・場所 4月20日(日) 14:00から講堂にて
  - (2) 講師 千葉市美術館館長 山梨 絵美子氏
  
2. 日曜美術講座
  - 「大和文華館初代館長 矢代幸雄と東洋美術」
  - (1) 日時・場所 5月11日(日) 14:00から講堂にて
  - (2) 講師 大和文華館 学芸部課長 瀧朝子
  
3. 列品解説
  - (1) 日時・場所 毎週土曜日14:00から展示場にて
  - (2) 解説 大和文華館 学芸部
  
4. 無料招待デー
  - 財団法人設立記念日 5月8日(木)

※何れのイベントも参加は無料ですが、入館料が必要です。

※講堂の最大定員は100名です(先着順)。

以 上